

ダブルス、第1シングルス、第2シングルスが同時に3面展開された団体決勝戦。第2シングルスで相手に先勝され、負けられない状況から1対1のタイに持ち込む勝利を挙げた第1シングルスの高田さん。「緊張していたけれど、集中できたので練習以上の力を発揮できました」と振り返ります。その後、ダブルスが勝利を挙げ、チームは優勝を決めます。「みんなで力を合わせて取った金メダルだし、初めての全国優勝だから気持ち良かった」と高田さんは笑顔を見せます。

バドミントン経験者の母と姉の影響で、小学1年生からバドミントンを始めると、めきめき頭角を現し、3年生

で初めて全国大会に出場します。「3回戦で負けてしまい、全国のレベルの高さを痛感しました」と振り返ります。その後も全国大会に出場し、5年生の全国大会で5位に入賞。県大会優勝者や全国大会入賞者しか出場できない夏のABC大会の出場権を獲得すると、大会でも3位に入賞します。「レベルの高いABC大会に出場することができ、さらにメダルも取れたので自信になりました」と話します。

今後について「中学生では、個人戦で優勝したいです。周りから信頼されて応援される選手になりたいです」と目を輝かせます。目標に向けて、高田さんの負けられない戦いは続きます。



全国大会の個人戦でも優勝したい

高田 万智さん(石ヶ瀬小6年)

12月に開催された第31回全国小学生バドミントン選手権大会で、**県代表として都道府県対抗団体戦の部に出場し、アベック優勝**を果たした石ヶ瀬スポーツ少年団の高田万智さんと伊藤優斗さん。全国大会の感想やそれぞれが抱く今後の夢に迫ります。



インターハイに出場し、目標とされる選手になりたい

伊藤 優斗さん(大府小6年)

「チームの優勝に貢献するため、出場した試合は全て勝つ」と意気込んだ通り、決勝戦の1戦目ダブルスで抜群のコンビネーションにより、チームを勢いづかせる勝利を挙げた伊藤さん。「今までで一番うれしい瞬間でした」と興奮気味に話します。

伊藤さんがバドミントンを始めたのは、小学1年生の頃。その後、5年生で初めて全国大会のシングルスに出場しますが、結果は1回戦負け。「悔しかった。リベンジしたい」と誓い、6年生の全国大会を目指します。が、県大会の準々決勝で敗れます。「1年間このために頑張ってきたのでつらかった」と肩を落としますが、す

ぐに気持ちを切り替え、団体戦の選手選考のために実施された強化合宿に臨みます。「最後のチャンスをつかむため、全力を出し切りました」と県内トップレベルの選手が集まる中、必死にアピールを続け、見事代表の切符をつかみ取り、その勢いでチームを優勝に導きます。

「バドミントンを続けてきたからこそ、学校以外の友達がたくさんできました」と笑顔を見せる伊藤さん。「中学でも結果を残し、高校ではインターハイに出場したいです」と今後の目標を話します。伊藤さんは大きな舞台に向けて、これからも努力を重ねます。

